

令和5年6月7日(水)

「コロンブスの卵」

皆さんは、「コロンブスの卵」の意味をご存じですか？「コロンブスの卵」とは、“初めて行うことは難しいこと”という意味です。一見、簡単そうに見えるようなことでも、初めて何かをするときは難しいことの例えです。

コロンブスは新大陸を発見した後、大勢のスペイン貴族とのパーティーに参加しました。その際、大陸発見の功績を讃えられました。しかし、同時に、大陸発見など誰でもできるとの批判も受けました。その批判に対してコロンブスが行ったのが、卵を立てることでした。コロンブスがテーブル上の卵を一つ取り「誰かこの卵をテーブルの上に立てられる人はいますか」と周囲の人に言いました。しかし、誰もできませんでした。

それを見たコロンブスは、卵の尻を潰して立てて見せました。その際に「新大陸の発見もこれと同じことです。船を西に進めれば誰でも大陸にぶつかるかもしれないが、それを最初に思いつき実行に移せることが大事だ」と言ったそうです。

この逸話が由来となって、「コロンブスの卵」という言葉が生まれました。日本で「コロンブスの卵」という言葉が紹介されたのは戦前の1921年発行の「尋常小学国語読本」という国語の教科書の4年生用教材の中です。「コロンブスの卵」という言葉と併せて、由来となったコロンブスの逸話も紹介されていました。

「コロンブスの卵」は英語で“Columbus's egg”又は“egg of Columbus”と言います。「コロンブスの卵」とは、人がちょっと驚くような意表をついた答えを出したときに使われます。

コロンブスはイタリア人でした。1492年から、合計3回の航海を行いました。最初の航海では一番最初に上陸したのが、西インド諸島のバハマ諸島にある「サンサルバトル島」でした。それに続いてキューバなどの南アメリカ沿岸に到達しました。コロンブス本人はそれがインドの一部だと信じきってしまい、ネイティブアメリカンのことをインディアンと呼んだのです。

人の意表をついた柔軟な発想だったからこそ「コロンブスの卵」という言葉が残りました。しかし、実際にはインドに到達していないのに自らが死ぬまでインドに到達したと勘違いしていました。